

小山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0043		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	1		
教科書/教材	使用しない。原則的に毎回プリントを配布する。					
担当教員	上野 哲					
到達目標						
1. 物事を論理的・整合的に見る視点を養い, 論理的思考ができるようになる。 2. 伝統的論理学における長所短所を理解し, 思考の論理性を保持できるようになる。 3. 現代の記号倫理学で用いられる基本的ツールを使いこなせるようになる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	物事を論理的・整合的に見る視点を養い, 論理的思考が正しくできるようになる。		物事を論理的・整合的に見る視点を養い, 論理的思考ができるようになる。		物事を論理的・整合的に見る視点を養い, 論理的思考ができない。	
評価項目2	伝統的論理学における長所短所を理解し, 思考の論理性を正しく保持できるようになる。		伝統的論理学における長所短所を理解し, 思考の論理性を保持できるようになる。		伝統的論理学における長所短所を理解し, 思考の論理性を保持できない。	
評価項目3	現代の記号倫理学で用いられる基本的ツールを正しく使いこなせるようになる。		現代の記号倫理学で用いられる基本的ツールを使いこなせるようになる。		現代の記号倫理学で用いられる基本的ツールを使いこなせない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 ① 学習・教育到達度目標 ② JABEE (D)						
教育方法等						
概要	3年の「倫理・社会」後期で扱った不可知論／独我論を克服するための方法として記号論理学を位置づける。					
授業の進め方・方法	海外及び国内で出版されている記号論理学の教科書をもとに作成したプリントを毎回配布し、それに基づいて授業を進める。到達目標 1～3. 前期後期それぞれに実施する中間試験及び定期試験 (計 4 回) において 6 0 %以上の得点により達成とする。					
注意点	特になし。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	論理学の目標		左記内容を理解する	
		2週	論証の妥当性		左記内容を理解する	
		3週	論証の正しさと命題の真偽		左記内容を理解する	
		4週	妥当な論証と妥当でない論証の区別		左記内容を理解する	
		5週	どのように記号化を進めるか		左記内容を理解する	
		6週	記号論理学の定義		左記内容を理解する	
		7週	帰納的定義と形成の木		左記内容を理解する	
		8週	数学的帰納法による証明		左記内容を理解する	
	2ndQ	9週	人工言語への翻訳		左記内容を理解する	
		10週	シンタクスとセマンティクスの区別		左記内容を理解する	
		11週	真理値分析		左記内容を理解する	
		12週	新しい結合子		左記内容を理解する	
		13週	双条件法		左記内容を理解する	
		14週	論理的同値性		左記内容を理解する	
		15週	命題の記号化		左記内容を理解する	
		16週	前期まとめ		左記内容を理解する	
後期	3rdQ	1週	述語論理のための言語作成と図式文字		左記内容を理解する	
		2週	量子子の作用域		左記内容を理解する	
		3週	変項の自由な現れと束縛された現れ		左記内容を理解する	
		4週	解釈による論理式の真偽判定		左記内容を理解する	
		5週	解釈と翻訳の違い		左記内容を理解する	
		6週	私たちの会話に含まれる「暗黙の了解」		左記内容を理解する	
		7週	存在推定		左記内容を理解する	
		8週	会話の含意		左記内容を理解する	
	4thQ	9週	伝統的論理学における 4 つの基本形とその相互関係		左記内容を理解する	
		10週	三段論法の 4 つの格と大・中・小概念		左記内容を理解する	
		11週	伝統的論理学における三段論法の妥当性		左記内容を理解する	
		12週	伝統的論理学にとっての難問		左記内容を理解する	
		13週	関数としての述語		左記内容を理解する	
		14週	多重量化		左記内容を理解する	
		15週	後期まとめ		左記内容を理解する	
		16週	記号論理学と現代科学との相関関係		左記内容を理解する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。		3	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0